

平成 29 年度 第 4 回鳥取県中部地域公共交通協議会について(報告)

- 1 日 時 平成 30 年 3 月 27 日 (火) 10 時 00 分～11 時 30 分
- 2 場 所 上灘公民館 第 1 会議室
- 3 出席者 委員 29 名中 23 名
- 4 内 容 ①パブリックコメントの結果及び鳥取県中部地域公共交通網形成計画 (案) について承認いただきました。
②平成 30 年度予算 (案)、事業計画 (案) について承認いただきました。
③鳥取県中部地域公共交通協議会設置要綱の一部改正について承認いただきました。
- 5 資 料 別紙のとおり
- 6 協議内容 以下のとおり

1. 開会

(事務局)

委員 29 名のうち出席者が 23 名。また、欠席者 6 名のうち 3 名から承諾書の提出あり。鳥取県中部地域公共交通協議会設置要綱第 5 条第 3 項の規定による開催要件の過半数を満たしていることを報告。

また、鳥取県中部地域公共交通協議会設置要綱第 5 条第 7 項の規定により、原則公開となっていることを説明。

2. 副会長あいさつ

(加藤副会長)

皆さま、おはようございます。ただいまご紹介いただきました、副会長を仰せつかっております米子高専の加藤と申します。名ばかりの副会長で出番はないと思っておりましたが、こういうことになりましてあいさつをさせていただきます。第 4 回ということで、今年度中部地域の公共交通網形成計画を策定するというところで、熱心にご議論をいただきましてありがとうございます。

また、年度末ということでお忙しいところでございますが、皆さまお集まりいただきましてありがとうございます。今日は私も天気が良いですから公共交通に乗って来てみようということで、家から途中までは車で移動しましたが、とある所にパーク&ライドしまして、日ノ丸自動車様の赤碕線に乗りまして、厚生病院で降りてフィールドワークをしてきました。場所がわからなかったので厚生病院の総合案内で伺ってこちらの公民館までなんとかたどり着くことができました。今日、私が乗車した赤碕線の便には 8 人ほど乗客の方がおられまして、必ずしも高齢者の方ばかりではなくて若い方も 2 人くらい乗られておりました。いろんな形で公共交通が地域のインフラとしてあるいはそれぞれの人の生活の支えとして機能しているということを体験して参りました。ちなみに今日はバスで来ましたので、また帰りもバスで帰ることになります。ちょっと挨拶が長くなりましたけれども、そういう地域の重要なネットワークとなっております公共交通網につきまして今日はパブリックコメントの結果なども踏まえ最終的な計画を承認していただければという風に思いますので、皆様方の忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。どうぞよろ

しくお願いいたします。

3. 報告及び協議事項

(1) パブリックコメントの結果及び鳥取県中部地域公共交通網形成計画（案）について

(事務局)

資料1、2-1、2-2について説明

(質疑応答)

(矢田委員)

12番の運転免許証の自主返納者への支援制度について、鳥取市と米子市はかなり返納者に対して支援が拡充されてきていると思いますが、具体的に中部としての支援というものはまだ決定はなされていないのでしょうか。

(事務局)

お手元の資料2-1の26ページをご覧ください。「(4) 免許返納者への施策」ということで今現在取り組まれている状況についてはこちらの方でご説明を申し上げているところでございます。

今回の計画を受けながら、倉吉市の場合ですと交通安全計画などの策定をいたしまして、高齢者の免許返納施策についても検討することにしており、また予算措置について検討するというようにいたしております。今後の展開ということでご理解いただきたいと思っております。

(矢田委員)

日ノ丸自動車様と日本交通様が出している70歳以上のシニアパスの購入時の助成を鳥取市も米子市も拡充されておられるので、そちらの助成をしていただければ免許返納者につながるのではないのでしょうか。よろしくお願いいたします。

(加藤副会長)

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。本日は今年度最後の協議会ですし、この網形成計画を最後に承認していただくこととなりますので、これまでも皆さまにご意見を頂戴していると思いますが、私の副会長の特権で皆さま方にご意見を伺ってみたいと思いますが、先ほどもパブリックコメントの説明で反映されたということで、河北地域のルート変更とか、青山剛昌ふるさと館への延伸ということも出てきましたが、事業者様に運行主体ということで、最終的な計画に対してのご意見を頂戴できればと思いますけれどもいかがでしょうか。

(福永委員)

順不同で思っていたことを申し上げますと、「ひなビタ♪」のことが出てまいりまして、ご存じだと思いますが、私共の車両のラッピングは路線バスに1台と、メリーバードとあって鳥取～広島の高速車両に1台ラッピングしております。会社のことになりまして恐縮しておりますが、いろいろなイベント等にご活用いただければと普段から思っておりましたので、この場を借りて申し上げたいと思います。

それから1～7番に色々なご意見がありますが、バス事業者から見れば非常にありがたいご意見を頂戴していると感激をしているところでございます。この場で分かりましたと言えないところもございます。検討の余地があるようなところもありますが、出来る限りご意向にそった運行

を検討して いずれにしてもバスを必要とされるように企業としても日々努力をしていく必要があると思っていますところでございます。

(徳丸委員)

日本交通の徳丸です。今福永所長が言われた通りで申し上げることはあまりありませんが、1～7番の中では、フィギュアミュージアムと青山剛昌ふるさと館の系統でしたら、私共の北条線で出来るのではないかという思いはあります。河北地域の乗り入れや、関金線を倉吉総合産業高校へということは昔からいろいろ考えてはいましたが、なかなか乗り入れということが果たして成功するのかどうかという思いがありまして、これまでも倉吉総合産業高校の方には行くことはできなかったのですが、河北地域の方も以前は循環バスが運行しておりましたが、それも思っていたほど乗っていただくことはできませんでしたので、実証実験の段階で終了してしまったということがあります。果たして関金から出てくるバスがあそこの交差点まで行って、どのようなルートでした方が成り立つのかなと思いますと、なかなかその辺も昔から計画にあります橋津線と北条線の方を179号に回した方が良いかなという思いもありまして、なかなかすぐに計画しましょうかということは申し上げにくいところがございます。なかなか思いが皆さま方に伝わらない部分があると思いますけれども、これでご了解をいただきたいと思います。

(加藤副会長)

バス事業者にご協力していただいて、また一緒にこの計画を実現していければと思いますので、よろしく願いいたします。尾崎委員はJRの立場としてご意見がありますか。

(尾崎委員)

倉吉駅の尾崎でございます。パブリックコメントの中の話で、先ほど徳丸所長がおっしゃったフィギュアミュージアムと青山剛昌ふるさと館の関係の路線の見直しという話もありますが、観光の事で言いますと、当社の特にインバウンドはアジア圏の方々がすごく増えています。関西から入るルートと米子から入るルートがありますけれども、そういったときに乗り放題のルート設定する中で、松江エリアとかではバス事業者様も含めて乗れるようにしていて、そういったところも取り残されているのが鳥取県ということになっているので、そういったところを意識しながら今後は観光をイメージしながらタイアップのことも考えていただけるとさらに利便性がよくなると思います。あともう一つ◎にはなっておりませんが、IC化の話がありましたが、確かに山陰本線で行きますと伯耆大山から西と伯備線ということで、岡山ルートとのIC化についてはすでに昨年から実行されていますが、今後鳥取方面、それから智頭急行経由の関西ということにルートが残ってくるのですが、智頭急行様のところがクリアできれば恐らく一気に進んで、鳥取、島根全てIC化できるのではないかと思います。やはり今松江エリアについてはJRのICOCAのICとタイアップした方向で進めておりますし、関西で言いますと取り残されていた阪急様もカード決済だったのでできませんでした。秋には阪急の関西パスともタイアップが出来るということになっておりまして、今はほとんどICカードを持っていればバスもJRも私鉄も乗れるということになってきています。コンビニもほとんど使えるようになってきていますので、そういったところを公共交通を考える時に少し考えていただくと我々JR側の設定のスピードも挙がっていくと思いますので少し検討いただければと思います。

(加藤副会長)

ありがとうございました。観光を確認した交通機関からの連携だとか、IC化を進めていきたいということで、またJRさんも一緒に協力していただけることだと思えます。タクシー事業者様

はいかがでしょうか。

(下吉委員)

特にありません。

(山根委員)

特にありません。

(井上委員)

パブコメの3番についてですが、こういったご意見があることは、私もこれまでも利用者の方から聞いておりますが、限りなく少数意見だと思っております。ほとんどの方は倉吉市内から赤瓦経由で青山剛昌ふるさと館までという逆のコースはそんなにはない。実際にはほとんどが倉吉駅から直接タクシーで青山剛昌ふるさと館まで来られるか、由良駅で降りてそこからタクシーを利用されるというのがほとんどだと私としては認識しております。これまでも鳥取砂丘コナン空港から青山剛昌ふるさと館まで何便か空港連絡バスを延伸していただいておりますけれども、これもやはり思ったよりも利用者は非常に少ないということで、詳しい数値は副町長がいらっしゃっているの聞いて頂ければいいと思いますけれども、非常に乗車人数が少ないのでバス事業者への負担が多いと。やはりこれも朝の1便2便で直接来られない便の設定も観光客の皆さまにとって使い勝手の良い設定になっていないということもあるかと思っておりますけれども、特にそのあたりは北栄町の地元の事業者としては、試験的に運行していただいてその結果を見られてからでもいいかと思っておりますけれども、私は結果がほとんど見えているのではないのかなと思っております。

(加藤副会長)

ありがとうございます。地元の事業者様として実態を踏まえて貴重なご意見をいただけたと思いますので、今後の実施段階でご意見を踏まえて考えていきたいと思っております。後ほど副市長の西尾委員には先ほどの件をお話させていただきたいのですが、順番通りに進めさせていただきたいと思っております。矢田委員は先ほどもご意見をいただきましたが追加でご意見がございますか。

(矢田委員)

今後のことということでバイタルリード様に調査等々をされて、やはり既存の路線の中の調査じゃないかと思っておりますが、中部においても交通空白地がかなりあると思っております。その辺の調査等も行っていたかと思っております。過去に日本交通様が運行していらっしゃった天神の方を走る路線がありましたが、私の方に一度要請がありました。「〇〇バスがなくなりましたが、走らせてください」という要望もあったので、このような交通空白地も再度調査していただきたいと思っております。それから鳥取県ではなく他の県の話ですが、やはり便数を減らして空白地に回すとか、そういったことをされている県もありますので、そういったことも今後検討していただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(加藤副会長)

ありがとうございます。交通空白地の更なる調査も必要ではないかというご意見でありました。続いて鳥取県PTA協議会の足羽委員、高校PTAの天下委員はいかがでしょうか。

(足羽利委員)

小中学生がメインになりますので、なかなか公共交通を通学などで使うことはありませんが、パブリックコメントにありました7番はいい企画だと思いますので進めていただければと思います。

(大下委員)

整理番号の6番に高校生の入学までに周知の案内をするということですが、高校の入学式はだいたい9日頃、中学校は10日頃に行われます。これにまず配布等が間に合うかどうかというご質問が1つということと、先ほど北栄町の由良タクシー様からご意見がありましたが、先だって私が意見させていただいた青山剛昌ふるさと館の観光客について、先ほどもお話しにありましたがアジア圏の方が多いいということで、表示をもっとわかりやすくするとか、出ていますけれども、韓国語、中国語。フィギュアミュージアムの方もどうせ試験的なことをされるのであれば、バス停等もわかりやすいものに変えるとか。せっかくされるのでしたら表示位でしたらそんなに予算はかからないと思いますのでバス停等も改善して欲しいという要望です。せっかくやる以上は前向きに考えていただきたいので。それともう1点、これは参考になるかどうかなのですが、さきほど観光等の話がありました。いろいろな。何回か出席していて中部圏内の交通網の体系なのですが、もっと広く、大山1,300年祭、それと各地のことがあります。それとアジア圏の方が沢山来ているという意見がありました。これは今年度大山に私も何回か行きましたが、アジア圏の方が多いです。増えています。その方達の中で宿泊される方は交通ってただ素通りではなくて宿泊等もあります。となると「次行く場所はどこにしようか」ということを多々聞きました。というのは鬼太郎の方は西部です。こちらは青山剛昌ふるさと館、また移動となるとタクシー、それからこちらの方に宿泊等々ということも多いと思います。そういうことをもう少し枠を広げて調査させていただいて連携すれば、何か見出せるものがあるのではないのでしょうか。もう1つは、日ノ丸自動車様や日本交通様のバスを今年何回か使って、中部の青少協の方で大原の方にスキー研修に行かせていただきました。大山の方もバスで走りたい、それから社地区というところも今回使わせていただきました。結構そういうニーズがあります。その際、貸切バスの予算等を市に要請してもそれが出せないということになる。青少協としては動いてますが。小学校、中学校、メインは小学校ですが、私は今高P連ですがそれぞれ関わっていて、普段から使う子供たちが利用できる形とか、結構ニーズがありますので、実際に使っていますのでそういうことを踏まえて今後利用していただくことを考えていくと良いかなという意見です。最初の質問だけで結構です。間に合うかどうか教えて下さい。

(事務局)

75ページの方に今回書き込みをさせていただいておりますが、対応としましては中学卒業時等ということで、高校の入学式にはもうすでに通学の手段については確定をなさっているだろうと我々事務局で議論いたしまして、例えば中学生で高校進学を選択をするときに間に合うような形で、「〇〇高校への通学の手段にバスを利用するとこのような形になります」というものが中学校時代に間に合わせる事ができればということを考えておまして、具体的にはその方向で進められたらということ考えております。

(加藤副会長)

ありがとうございます。大下委員に前回ご発言いただいた内容が盛り込まれているということで、この計画が非常に良いものになりました。ありがとうございます。観光の話がありましたけれども、先ほどJRの尾崎委員からも出ましたが、鳥取の中部地域では広域観光ビジョンも平成26年2月に策定されていらっしゃるということで46ページに計画が策定されていることの概要が書かれていますが、この中に国際観光の推進ということも書かれてありますからそういったアジア圏の観光客の取り囲みは観光の方で意識されているだろうと思うので、また交通の方でも連

携をとっていただければと思います。

(高橋委員)

鳥取県としましても現在東部、中部、西部と網計画を作ったのですが、そういった広域的な視点が必要だろうということを考えております。特に色々なインバウンドのお客様、それから今度デスティネーションキャンペーンもございますが、県外からいらっしゃるお客様が沢山鳥取県に増えております。そういった中でやはり鳥取空港、米子空港それから鳥取駅、倉吉駅、米子駅といった主要な交通結節点、それと主要な観光地、そういったところをどうやって繋いでいくのかというのは大きな課題だと考えております。またこれにつきましては交通だけでなく、観光とかあるいは空港、公安の方等と連携してこれから積極的に取り組んでまいりたいと思っております。またあとでご説明がありますが、中部の協議会の方にも観光の関係者の方にも入っていただくというご提案がこの後にあると思っておりますが、中部地域でもそういった観点で他地域との接続、連携も視野に入れて、さらにこれから次の計画につなげていただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(足羽賢委員)

身体障がい者の会員の人のほとんどが自家用車で移動しておりまして、バスを利用することがほとんどありません。それで身体障がい者も実際に公共交通機関を使って移動してみようということで、先日 JR を使って倉吉駅から松崎駅まで車いすの人も含めて移動しようと思って実施しました。倉吉駅はエレベーターが出来ましたのでホームの方にも降りることができ、電車の方にも都会の地下鉄のイメージでするっと行けるのかなと思っていましたら、思いのほか急な段差があって乗れないですよということでした。駅の方に事前に連絡していたら人数を集めて対応していただけたのですが、そういうことに会員の人が気付いて連絡受けたのが乗車の1時間前でしたので、ちょっとこれは無理かなということで、車イスの人は車で松崎駅の方に移動していただいて、歩ける人が車いすだけ持ってどんな風に変なのかということを経験しました。そういう訳で私共も久しぶりに JR に乗って、乗る時もボタンを押さないとドアが開かないということ初めて気が付きました。そういうことを考えましたら、7番にある「小学生から路線バスへの関心、愛着を持てるような事業をしましょう」ということは、今の小学生も自家用車を使って家族で移動していてバスに乗ることはほとんどないと思います。ですから、小さい時から乗り方を教えてもらって、どこでも移動していくことができるということを教えていると、長い目で見ていいと思いました。

(知久馬委員)

1 つ思うのは、バス停にはベンチのないところがあります。ベンチ等は会社や事業所が寄付していらっしゃるようですが、ないところにベンチなどを備えていただけたらいいと思っております。

(加藤副会長)

バス停に関しては私も今日乗ってみまして、上屋があるところ、野晒しのところ、色々ありますので、知久馬委員が日頃感じておられる通りだと思います。今回のパブコメでも5番ですか、住民等との協働による待合環境整備ということで、倉吉市は補助制度も持っていらっしゃるようですから、しっかり活用していただいて、地域でバスを盛り立てていくみたいな、そういう取り組みの中でもそういう整備が進んでいくことを期待したいと思っております。また、知久馬委員には引き続き利用者の立場を含めてご意見いただけたらと思います。次に琴浦大山警察署の源内

委員、倉吉警察署の石田委員代理はいかがでしょう。

(源内委員)

特にありません。

(石田委員代理)

倉吉市の旧市街地ですが、跡地に市役所の庁舎が出来るとか、前のナショナル会館の跡地も新たに施設が出来る予定となっており、警察の交通規制も再検討していかないといけない時期に来ているのではないかなと思っております。

(加藤副会長)

ありがとうございました。県警の福井委員はいかがでしょう。

(福井委員代理)

整理番号 39、赤瓦の方の交通規制の方の一般車両が通行できないようにというような配慮が必要という意見もございます。規制かける分にはこういった意見もありますけれども、実際にそこに住んでおられる方のことも考えての規制となります。じゃあ地元民は除外しましょう、それでいいのかなというような議論も必要となります。ですので、今日言ったからすぐ、来週、来月からしようかということにはならないのでこういう意見がありましたら、出来る限り早く交通規制等を警察署とかに相談いただければと考えております。

(加藤副会長)

ありがとうございました。公共交通といっても交通環境だとか色々なご意見が出て参りますので、そういったところはまた適宜警察とか関係機関につないでいただければと思います。よろしくお願ひいたします。そういたしますと、倉吉市の公共交通会議の羽根田委員お願ひします。

(羽根田委員)

パブリックコメントあるいはこの公共交通に関する実態調査、詳細における調査を拝見いたしまして、それぞれの課題に対応していらっしゃることを確認しました。今インバウンドの話もございましたが、地域の方々のための公共交通ということで考えるのであれば、この資料にもありますように公共交通を利用する年代層としては10代、そして高齢者ということになりますので、これらの方に寄り添う、もっと利便性の高い公共交通ということをもう少し掘り下げていく必要があるのかなと思ひます。色々課題について対応策が検討されて実施されているのですが、もっと別の状況を見てみますと、バスの利用者等の変化はございません。であれば、倉吉ならではの違った発想の転換が今後はあってもいいのかなと感じました。以上でございます。

(加藤副会長)

ありがとうございます。羽根田委員は鳥取短期大学にもご在職ということですが、先ほどパブコメにありまして、地元、短大等と連携した取り組みということが追記されたのですが、今おっしゃった倉吉ならではの発想の転換というところで、そういった学生たちのアイディアとか意見とか行動とかが反映できそうな感じでしょうか。

(羽根田委員)

そうですね。先ほど学生によるアイディアという対応策もありましたので、ぜひ協働していきたいと思ひます。ただ、学生はJRで通学してきまして、あとはスクールバスですが、倉吉周辺でバスを利用するということはほとんどないという実態でございます。

(加藤副会長)

あと、そのあたりの実態の分析等もできればと思ひますので引き続きよろしくお願ひいたしま

す。湯梨浜町の森委員お願いいたします。

(森委員)

湯梨浜町企画課長をしております森と申します。よろしくをお願いいたします。この網形成計画ですが、一つでも二つでもできるところから順次進めていけたらと思っております。よろしくをお願いいたします。

(加藤副会長)

ありがとうございます。三朝町の青木委員お願いします。

(青木委員)

三朝町の総務課長の青木と申します。この会は初めてなので、当たらない部分もあるかもしれませんが、先ほど知久馬委員が言われましたが、三朝温泉で日本遺産との関係である程度の利便性が確保できている筋がある一方で、先ほどもでておりましたが幹線から遠く離れている場所もございます。バスを大切にしながらもそういった場所についての新たなネットワークといったものも考えていくことが必要かなという風に課題をもっているところでございます。もう一点は、小学校の統合がうちはまだ終わっておりません。谷筋で小さな学校を引っ張り出すことになりますと、スクールバスと路線バスの併用といったことも課題となっておりますので、また皆さんとご相談させていただく機会があるかと思っております。よろしくをお願いいたします。

(加藤副会長)

ありがとうございます。三朝町としての課題、それから中部地域としての課題、色々なものが関わってくると思っておりますので、引き続きよろしくをお願いいたします。北栄町の西尾委員お願いいたします。先ほどコナン関係の話もありましたので、少し触れていただいても結構かと思っております。よろしくをお願いいたします。

(西尾委員)

北栄町の副町長の西尾です。この交通網形成計画については全く意見ございません。とにかく早く施策化をしてほしいということを前から申し上げているのですが、残念ながら平成30年度に新たな施策はなかったと思います。今後のスケジュールにも関わることですけれども、タイムスケジュール、次の議題に係るところですけれども、順次出来る所から実施ということが書いてありましたが、とにかく今となっては平成31年度からで仕方ないかと思っておりますが、平成31年度にどれだけのものが打ち出せるかなと思っております。やはり利用者である高齢者の方や高校生をターゲットにいかにより具体的な施策を出していくかだと思いますので、そこについてはできるだけ早く、平成30年度の早い時期に決めていただきたいと思います。パブリックコメントに出ていた青山剛昌ふるさと館のことについてですが、路線としては日本交通様に運行していただけるということではあります。どれだけ利用者があるのかということは私も疑問があるところでございます。今の連絡バスにつきましても、実際に事業者さんに年間、正確な数字ではありませんけれども、60万、70万とかの金額を補助金として出していたと思っておりますので、それはもう町が他所のところから引っ張ってくるために必要な経費だと思って予算化をお願いして議会に認めていただいている訳なのでそれはしていきたいと思っておりますけれども、あとはいかに今いるターゲットに乗って貰うかだと思います。アンケートの中では今の状況でも交通機関を利用できるけれどもという回答が80%以上あって、ですから何かうまいこと拵げたからといって使っていただけるかどうかということは事業者の方にとっても疑問なところはあるのではないのでしょうか。役場の職員を見ても子どもを高校前に送ってから通勤してくる職員がたくさんおりますので、そう

いった職員がバスを利用して子供達を送り届けるかどうかということにはちょっとどうかとも思います。ただそうはいいまして、どれだけのお客様をとということから考えますと高校生だと思しますので、ぜひ自動車の方にも色々ご提案いただければありがたいと思います。

(加藤副会長)

ありがとうございます。中部総合事務所の栃本委員をお願いします。

(栃本委員)

中部地域振興局の栃本でございます。今回代理で出席させていただいておりますので少し頓珍漢な話になるかもしれませんが、今感じておりますのは、特に中山間が中心になるかと思いますが、高齢者の方の免許返納のところではなかなか返すという踏ん切りがつかない方がたくさんおられるのではないかと思います。例えば、バス停まで距離があるとか、坂道を上り下りしないとバス停までいけないとか。そういった辺りでなかなか免許を手放さないのかなと思いますけれども、本日はご欠席ですが NPO のたかしろ様の様にバス停までの移動手段を確保されている事例がございますし、あの様にうまく形が出来てくればいいのですが、そうは言ってもなかなか黒字で運行しているというような事にはなっていないようですし、地域の中でも共助の仕組みでなんとかならないかと話題がでることがありますが、そういった場合に車をどうしようとか、万が一の事故があったらどうしようかというところで、タクシー会社とうまいこと連携取れてそんなことが進むといいという話も多少出ております。課題としてはすごく大きいのですけれども、なかなか具体的にこうやったらいいといういい方法が思い浮かばないものですから、皆さまの知恵をお借りしながら検討ができればと思っております。以上です。

(加藤副会長)

ありがとうございます。県土整備局の村尾委員はいかがでしょう。

(村尾委員)

私も代理で出席させていただいております。今回のパブコメのご意見をまとめておられる中の終わりの方の今回の計画に反映されたものではないところですが、整理番号 42 番に「倉吉の道路網について山陰道から 179 号に繋いではどうか」というご意見を出された方がいらっしゃいますが、県土整備局の方でもこのご意見と似たような方向になりますが、今 179 号の 4 車線の道路が北上して T 字の交差点に湯梨浜町内となっておりますけれども、その先のバイパス化の検討を始めているところでございまして、交通安全や渋滞対策といったことが目的ではありますけれども、その計画自体はやはり美術館や倉吉市の中心部の方へつなぐ道ということで当然効果が出てくるものでございますので、そういった整備に向けて今後取り組んでいきたいと考えております。以上です。

(加藤副会長)

ありがとうございます。パブコメ 42 番につきまして補足していただいたような形でありありがとうございます。では、運輸支局の山本委員をお願いします。

(山本委員)

鳥取運輸支局の山本と申します。委員の土井に代わって代理出席でございます。そのための射たような発言ができないかもしれませんが、例えばパブリックコメント一覧の整理番号 7 番にありますように、「小学生から路線バスへの関心や愛着が持てるような何かを行ってはどうか」というような意見をいただいているところだと思っております。今年度、東部の方で自治体様や事業者様が実施されたバスの乗り方教室では、小学生の方とか高齢の方へのものに当支局もお邪魔さ

せてもらったこともあると思いますのでそういう点ではご協力できることもあるのではないかと
思っております。意見ということではございませんが以上です。

(加藤副会長)

ありがとうございました。運輸支局様として色々なノウハウとか事例とかもご承知でしょうから、また中部の事業実施につきましてご協力していただければと言う風に思います。高橋委員
お願いします。

(高橋委員)

本日は貴重な意見をありがとうございました。本当に皆さま方からのご意見は今後を考える上
で非常に参考になると思えました。公共交通の利用促進は非常に難しい課題でございます。ただ、
先ほど免許返納が増える中、移動困難者の方の支援であるとか、あるいは外出支援で健康長寿で
いていただくためにも大事な足でございます。また、発想の転換をというようなお話もありまし
たが、新たな利用をどう増やしていくのかということも、やはり知恵も必要ということの風に
思います。とにかく早く施策化してという話もございましたが、来年度以降もどんどん早めに検
討を進めていって、どんどん打ち出していけたらという風に思っておりますし、中部と先ほど申
上げました県全域での推進というところも含めて鳥取県地域振興部としても皆さま方といっし
よになって進めてまいりたいと思いますので、どうぞご協力をお願いいたします。

(加藤副会長)

ありがとうございました。今一通りご意見を頂戴してありがとうございました。今日はこの網
形成計画の承認をしていただきたいという風に思いますけれども、皆さんから頂いたご意見は反
映されているのではないかと、あるいは今後の事業実施に向けて留意して実施にあたりたいと思
いますので、この他にないようでしたらこの計画についてご承認をお願いしたいと思いますが、い
かがでしょうか。(なし) 異議なしということで、中部地域の網形成計画につきましては承認いた
だいたということにいたします。どうもありがとうございました。

(2) 平成 30 年度予算 (案)、事業計画 (案) について

(事務局)

資料 3-1、3-2 について説明

(質疑応答)

(加藤副会長)

私が聞くのも何ですが、この来年度の事業のところでは 3 つ項目があって、利用促進活動が上に
2 つありますけれども、これは県として実施されるものと計画の中に書いてあって国庫補助であ
るものということよろしいでしょうか。二枚目の下 4 つが利用促進活動や利用促進事業にあた
るのかと思いますけれどもそういう分けでよろしいでしょうか。

(事務局)

下の 4 つについては利用促進という形で網形成計画の方に掲げている部分でやっております。
そのうちの下二つの分については協議会の方で国庫補助の事業を活用してやることと、上のキャ
ンペーンと乗り方教室の方については別途県の方で予算措置しておりますけれども、それについ
てもこちら協議会と一緒にさせていただくというような形にしております。

(加藤副会長)

わかりました。一番下の関係機関と連携した利用促進の実施というのは定例的にやっているものということでしょうか。

(事務局)

バス停等の修繕を毎年させていただいております。そういった関係の予算等につきましては、市町の方で用意させていただきまして、計画的に修繕等に当たっております。そういったものについて利用促進等の活動ということで入れさせていただいております。

(加藤副会長)

わかりました。具体的にはそういうことであるということですね。市町の方の負担でされていると。わかりました。それと、来年度再編実施計画の策定ということですが、2枚目の方は策定と言い切っておりますが、1枚目の方は策定に向けた検討を行うと書いてありまして、微妙な言い回しの違いがありますが、一応策定するところまでいくということでしょうか。

(事務局)

そうです。

(加藤副会長)

それと、先ほど網計画を承認頂いたのですが、61ページに5年間で実施する事業が列記されていて、青字で「地域公共交通再編事業」と書いてあるところがありますが、この再編実施計画というところの来年度に検討するところは具体的にこの青字のところをさらに具体化するということの並びでしょうか。

(事務局)

先ほどのスケジュールの方で言いますと、「移動ニーズに対応したルート・ダイヤ・路線の再編」ということで、こちらが青字で掲げている部分でございます。それ以外の例えばタクシーの活用等の検討する部分についても各種事業の調査検討ということで、調査検討は一緒に進めていくという形でございます。それで国の方に認定を取るための再編実施計画というものが路線再編に伴うものになりますので、それがこの青字で記載しているものということでございます。

(加藤副会長)

国への補助申請をするにあたり、認められる部分が青字で書いてある「地域公共交通再編事業」で、+αの調査も一緒にするというのでしょうか。

(事務局)

少し検討したら全体をするのですが、その後の再編実施計画を作った後に国の方に認定を取る部分がこの青字の部分になります。来年度は全体をやります。

(加藤副会長)

全体をやって部分を国の方に認定していただくということでしょうか。

(事務局)

そうです。全体の部分を調査検討したうえで、国に出す必要な部分だけを最終的に国に出すことになります。その部分が青字になっているところでございます。

(3) 鳥取県中部地域公共交通協議会設置要綱の一部改正について

(事務局)

資料4について説明

(質疑なし)

4. その他

(事務局)

先ほどの設置要綱の関係で説明させていただきましたけれども、委員の交替が2年ごとにございます。今年度末がその交替の時期になっておりますので、そちらの案内をまた後ほどさせていただきますと思いますので、皆さままた引き続きよろしく願いいたします。

(加藤副会長)

ありがとうございます。それとこのパブリックコメントに対する意見・回答につきましてはどのような形で返されるのでしょうか。

(事務局)

パブリックコメントの意見に対する回答は県のHP等で公表する形で行う予定です。

(加藤副会長)

ありがとうございます。貴重なご意見いただきましたので、またそれをお返ししていただいて、進めていければと思いますのでよろしくお願いいたします。そうしますと、皆さま少し時間を超過しておりますけれども、活発にご意見いただいてありがとうございました。計画策定して終わりではなくて、来年度再編実施計画の策定にも進んでいく訳ですが、委員の皆さまからもありましたように、1つでも2つでも具体化をしていって、公共交通やこの中部地域、鳥取県が活性化していくことが目的ですので、引き続きご協力いただければと思います。今日はどうもありがとうございました。

5. 閉会